

ルクセンブルクパビリオン部材再利用による 子育て支援施設整備事業基本計画書

令和8年5月 交野市

序章

P3

基本計画の趣旨

第1章

P5

1.交野市の子育てを取り巻く状況 / 2.ルクセンブルクパビリオンの再生・再利用と第一中学校跡地活用 / 3.施設整備の方向性

第2章

P14

アンケート等に基づくニーズ・課題の整理

第3章

P21

1.基本理念 / 2.利用者想定と展開イメージ / 3.求められる機能 / 4.分棟連携・避難施設としての考え方

第4章

P26

1.計画地の概要 / 2.敷地及び意匠基本方針 / 3.構造基本方針（パビリオン部材再利用方針） / 4.外構・設備基本方針 / 5.配慮事項

第5章

P33

1.規模概要・諸室計画 / 2.ゾーニング・動線・屋外の計画 / 3.各棟の利用のされ方イメージ / 4.基本計画図・イメージパース

第6章

P43

整備手法 / 管理運営 / 開館計画案

第7章

P45

概算事業費 / 整備スケジュール / 今後の留意事項

序 章

基本計画の趣旨

【基本計画の趣旨】

- 全国的に少子高齢化や人口減少が進む中、本市はこども・子育て世代が転入超過傾向にあるなど比較的踏みとどまっている状況であり、今後も若い世代から選ばれ続けるために、限りあるリソースを最大限活用し、創意工夫を図りながらこども・子育て支援施策を進める必要がある。
- 令和7年3月に策定した「交野市こども計画」では、すべてのこどもや若者が愛情に包まれ、夢と希望を持ち、心身ともに幸せな状態（ウェルビーイング）で成長できる社会の実現を掲げている。
- その一環として、こども達のための健全な遊び場・居場所としてボール遊び広場の整備等を進めてきたが、未就学児とその保護者が安全安心に利用できる施設が少ないという課題があった。また、こどもや保護者を対象とした相談支援体制の充実も求められているが、その拠点の中核となる「市立地域子育て支援センター（以下、地域子育て支援センター）」は老朽化が進んでおり、施設環境にも課題があることから機能強化が難しいという課題もあった。
- 一方、本市は同時期に、閉校となった第一中学校の跡地活用に係る検討や、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）で使用されたルクセンブルクパビリオン施設の部材再利用に係る検討を進めており、当該跡地を敷地としてパビリオン施設部材を活用した子育て支援施設を整備することにより、上記のこども・子育て支援施策に係る課題解決に繋がるほか、持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献や相手国との交流等への期待も踏まえ、付加価値の高い事業となると判断した。
- 本計画は、第一中学校跡地に「ルクセンブルクパビリオン部材再利用による子育て支援施設」を整備するにあたり、整備方針・方向性を具体化するものである。

【計画の位置付け】

- 本計画は、交野市こども計画等を踏まえ、地域全体でこどもや子育て家庭を支援し、安全で安心な子育て環境を整えるため、新たな子育て支援施設の理念・機能等を整理し、基本・実施設計業務に向けての指針とするものである。

【交野市こども計画との関係】

基本目標1	こどもを産み育てることができる まちづくり	(1) 妊娠・出産・育児の切れ目のない支援 (2) 多様なニーズに応じた保育サービスの充実
基本目標2	こどもが成長できる まちづくり	(5) こどもの居場所づくりの推進
基本目標4	こどものすべての成長過程にわたる支援	(6) スポーツ・文化・レクリエーションの充実 (7) 安心・安全に子育てできる生活環境の推進
基本目標5	子育て当事者に対する支援	(6) 子育て相談支援及び子育て情報提供の充実

【主な関連行政計画】

- ✓交野市第5次総合計画（基本構想・基本計画）
- ✓交野市健康増進計画（第3期）
- ✓交野市公共施設等総合管理計画・再配置計画
- ✓地域防災計画

第1章

1. 交野市の子育てを取り巻く状況
2. ルクセンブルクパビリオンの再生・再利用と第一中学校跡地活用
3. 施設整備の方向性

【交野市こども計画について】

【交野市こども計画の理念】

【基本理念】

こどもいっぱい 元気な“かたの”
～子育て 子育て 地域の和（なごみ）～

こどもや若者は、未来のまちの担い手です。誰もが安心してこどもを産み育て、すべてのこどもや若者が生まれ育った環境に左右されず、愛情に包まれ、夢と希望を持って、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で成長できる社会づくりをめざします。

【社会的背景】

- 核家族化の進行や地域のつながりの希薄化、共働き世帯の増加といった社会構造の変化等による子育て環境の変化
- 子育てに対する不安感や孤独感を感じる保護者が増加
- 子育てに関する支援ニーズの多様化
- 育児不安等を背景とした児童虐待件数の増加
- すべてのこどもと子育て世帯を妊娠・出産・育児期に応じて切れ目なく支援し、社会全体でこどもを育てる「こどもまんなか社会」の考え方に転換



- 子育て支援の歴史は、「特別な家庭への支援」から「働く保護者への支援」、そして「すべてのこどもと子育て家庭への支援」へと広がり、地域の身近な場所で気軽に相談することができる相談体制の充実が求められています。
- 本市においても、国の政策展開を踏まえつつ、令和7年3月に「交野市こども計画」を策定し、こども・子育て支援に向けた取り組みを効果的かつ総合的に推進しています。

【施策体系】



【地域子育て支援センターの概要】

- 地域子育て支援センターは、「子育て家庭に対する子育て相談、その他の支援を行うことにより、地域全体で子育て支援をする基盤の形成を図る」ため、平成20年1月に設置された子育て支援の中核的な施設です。
- 当初より唯一専用利用となる公共施設での地域子育て支援拠点として整備し、市全体の子育てに関する相談支援を行う役割を担っています。平成23年より国の方針を踏まえ、当該センターを含め中学校区に1か所、地域子育て支援拠点を整備し、身近な地域での相談体制を整備しています。また、平成29年には子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、中核施設としての役割を充実するため利用者支援事業を開始し、子育て支援サービスを充実させています。

【施設の概要】

根拠規定	交野市立地域子育て支援センター設置条例
所在地	交野市私部2丁目29番5号
事業 (条例第5条)	(1) 子育てに関する啓発、相談及び関係機関との連携 (2) 子育てに関する講習会及び講演会等の開催 (3) 子育てに関する情報の収集及び提供 (4) 子育てサークル等の育成、支援 (5) その他、必要な事業
主な利用対象者	0歳から概ね3歳のこどもと保護者
建築年次	昭和50年(1975年)
運営形態	指定管理
公共施設等 再配置計画	地域子育て支援センターについては、子育て支援施設としての機能は確保しますが、現建物については、老朽化が進行していることから、現建物は更新せず、本庁舎または学校施設の更新に併せて施設の複合化を図ります。また、機能の確保にあたっては、地域性も考慮しながら、民間施設や既存施設の有効活用についても検討します。



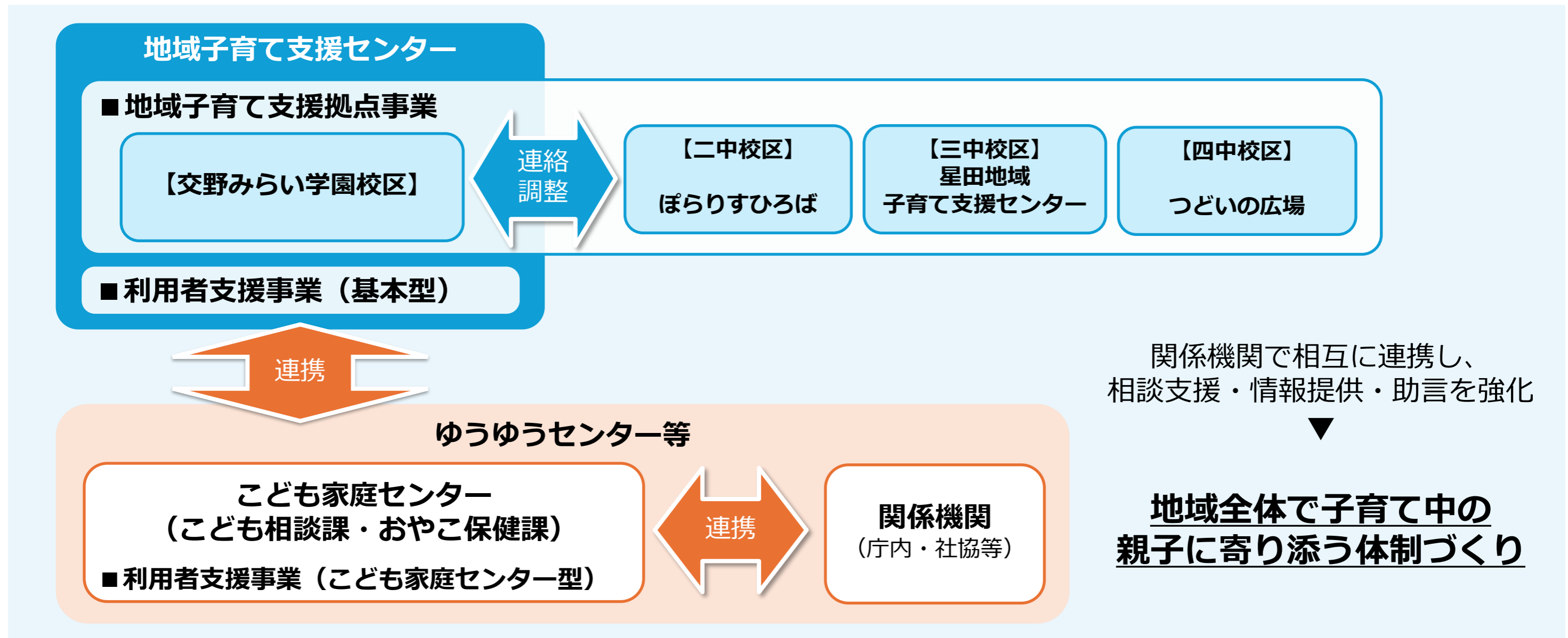
【利用者の状況】

区分	単位	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度見込
来所者	組数	3329	4923	4041	4905
	延べ人数	7650	10836	8900	10891
開所日数	日	267	267	267	236
1日あたり平均利用組数		12	18	15	18

【地域子育て支援センターの役割】

- 交野市こども計画では、子ども・子育て支援法に基づく地域子ども・子育て支援事業を実施することを掲げており、地域子育て支援センターでは、「地域子育て支援拠点事業」、「利用者支援事業」を実施しています。
- 地域子育て支援センターは、市内中学校区毎に1か所ある「地域子育て支援拠点」のうち、交野みらい学園校区（旧第一中学校区）に位置しており、4か所の拠点のとりまとめや連絡・調整を行う役割を担っています。
- また、子育て支援に関する個別相談等を行い、市域全体の窓口として情報提供等を行っています（利用者支援事業）。

地域子育て支援センターの主な役割	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 子育て親子の交流支援（子育て中の親子が気軽に集まれる場所の提供） ✓ 子育てに関する相談・情報提供・啓発 ✓ 4か所の「地域子育て支援拠点」の中心的役割（子育て関係機関との連絡調整とネットワークづくり）
-------------------------	---



【地域子育て支援拠点事業とは】

- 当初、保育所における事業の一つとして創設され、その後創設されたつどいの広場事業等を含め一つの事業として再編され、法定化された事業です。
- こどもや子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、家族や地域における子育て機能の低下や子育て中の保護者の孤独感や不安感の増大等に対応するため、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、こどもの健やかな育ちを支援することを目的としており、全国的に展開されています。
- 本市では、平成23年より中学校区毎に1か所設置しており、各拠点において特色ある取組をしています。なお、利用にあたっては、保護者が中学校区にとらわれず自由に選択利用できる施設として運営しています。

	交野みらい学園校区 (旧第一中学校区)	第二中学校区	第三中学校区	第四中学校区
名 称	地域子育て支援センター	ぼらりすひろば	星田地域子育て支援センター	つどいの広場
運営主体	(株) プロケア	ポラリス	(社福) 星田児童福祉会	交野市
場 所	私部2-29-5	幾野2-6-1	星田3-10-8	天野が原町5-5-1
実施日	月～金曜日、第2.4土曜日	火～土曜日	月～金曜日	水、金、土曜日

【利用者支援事業とは】

- 子育て家庭や妊産婦が、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の機関を円滑に利用できるように、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、関係機関との連絡調整、連携・協働の体制づくり等を行う事業です。
- 地域子育て支援センターでは、利用者支援事業（基本型）を実施しています。
 - ✓ 利用者の個別ニーズを把握し、それに基づき情報の集約・提供・相談・利用支援等
 - ✓ 教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連絡・調整・連携・協働の体制づくり
 - ✓ リーフレットその他の広告媒体を活用し、積極的な広報・啓発活動を実施し、広く利用対象者に周知

【地域子育て支援センターの課題】

- これまで、施設の目的を実現するため、地域子育て支援拠点事業や利用者支援事業を展開することで、市全体の子育て支援の中核施設として、機能の充実・強化を図ってきましたが、次のような課題を抱えています。

利用者数・件数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化や保育ニーズの増加により、対象世帯が減少する中、利用ニーズは増加傾向。地域子育て支援拠点事業としていつでも気軽に集える場を確保しつつ、多様なニーズに対応するイベント等を展開するには、周辺環境を含め、様々な制限がある。
ニーズの多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「遊び場の充実」や「就園児・きょうだいも利用できる空間」といった新たなニーズの増加。 ・ 子育て世代の価値観の多様化に対応し、これまで施設を利用してこなかった子育て家庭にも気軽に利用してもらえるよう、魅力的な施設とする必要がある。
施設の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現建物は築50年以上経過しており、建物の老朽化が進んでいる。このままの状況では施設面での機能強化を図ることが困難。 ・ 公共施設等再配置計画において「子育て支援施設としての機能は確保しますが、現建物については、老朽化が進んでいることから更新せず、本庁舎または学校施設の更新に併せて施設の複合化を図ります。また、機能の確保にあたっては、地域性も考慮しながら、民間施設や既存施設の有効活用についても検討します。」とされており、全市的な公共施設再編のタイミングと整合を図りつつ、機能を確保していく必要がある。
こどもの居場所や安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猛暑日の増加により、こどもたちの屋外遊びの危険性が高まっている。天候に左右されず安心して遊べる施設空間の確保が求められている。 ・ 全市的に、こどもたちの居場所や遊び場として、屋外ボール遊び広場等の整備・拡充を進めているが、特に未就学児について、安全・安心に利用できる屋内遊戯場所が少ない。



課題解決を図るため、施設機能の強化を図ることが必要

【ルクセンブルクパビリオンの再生・再利用について】

- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）において建築されたルクセンブルクパビリオンは、膜屋根を持つ鉄骨構造で、循環型経済の原則に従って設計され、万博閉幕後に可能な限りパビリオン部材の再利用を目指すという目標を掲げていました。
- 2024年3月26日、本市とパビリオンを所管するGIE（2025大阪万博ルクセンブルク経済利益団体）は、大阪・関西万博が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献」に強く賛同したことから、博覧会閉幕後のルクセンブルクパビリオン施設の部材を本市に移転し再利用することについて、今後、両者で協議していくことや、これを契機として両者の交流に繋げていくことに合意し、趣意書を取り交わしました。
- その後の協議において、本市は、パビリオンに込められた意思や意義を踏まえながら、子育て支援のための施設として部材を再生・再利用し、市民のために活用していきたいとの考えを示し、2025年11月12日、パビリオン施設部材の再生・再利用に係る協定を締結しました。

協定の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市とGIEは、ルクセンブルクパビリオン施設部材の交野市内における再生・再利用を通じて、持続可能な未来社会の実現という博覧会の理念を共有し、両者の友好交流を深めることを目的として締結するもの
対象の部材	<ul style="list-style-type: none"> ● パビリオンを構成する13ボックス（約640㎡）の内、展示室1～3及び多目的室の4ボックス（約430㎡）に係る屋根と鉄骨(柱・梁・筋交) ● 建具（自動ドア・開き戸）、外構（インターロッキング約50㎡相当）、設備（エアコン、屋内照明器具、キュービクル） <p>※これらの建築部材を、技術的・現実的に可能な限り再利用するもの</p>

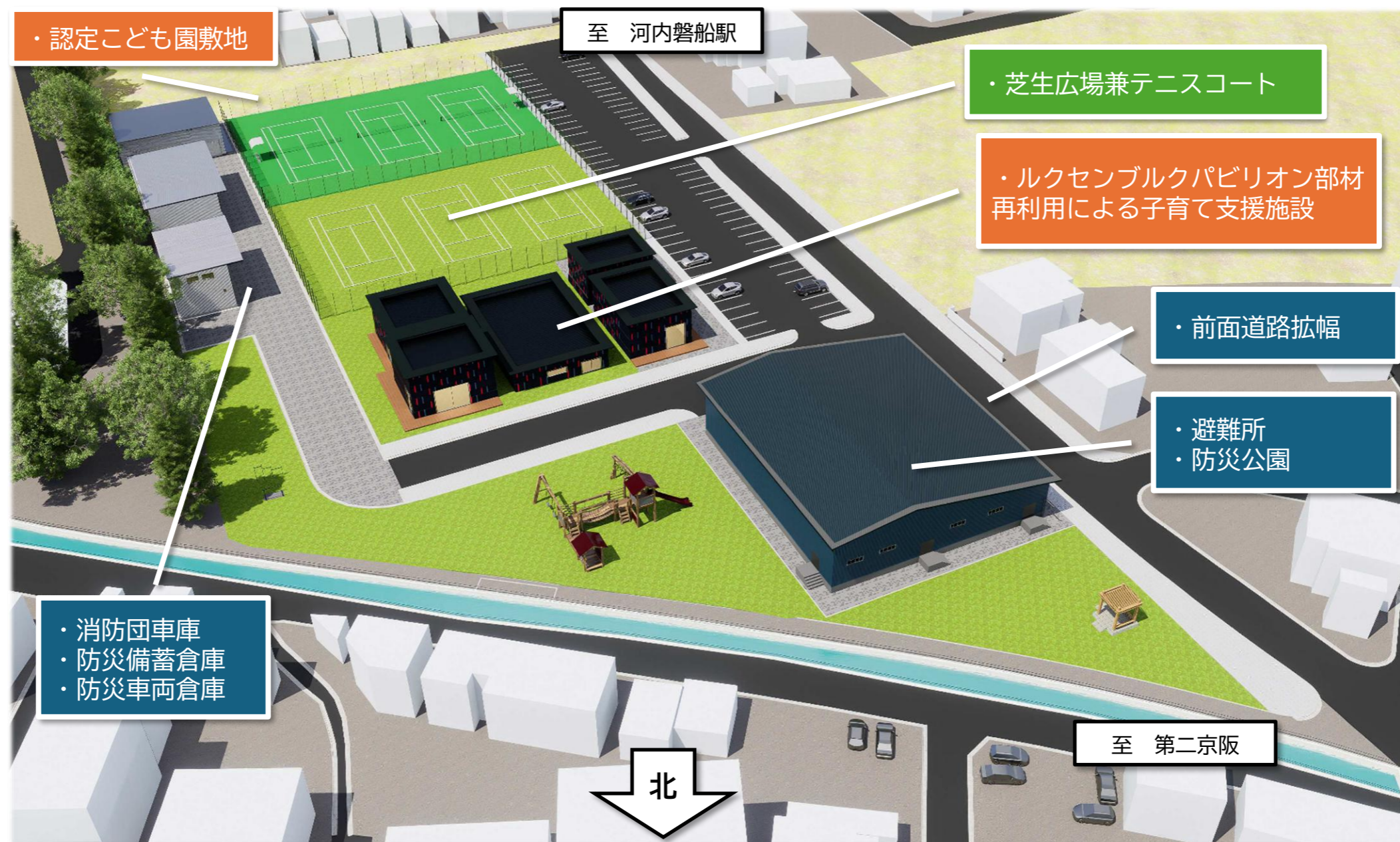


【参考】ルクセンブルクパビリオン
大阪・関西万博公式HPより



【第一中学校跡地活用について】

- 令和7年4月の交野みらい学園開校に伴い、第一中学校は学校としての役割を終えましたが、その跡地は市にとって貴重な財産であることから、売却をせず、市民や地域のために有効活用していくこととしました。しかしながら、跡地活用を検討するにあたっては、校舎解体に係る財源確保を図りつつ、地域の避難所機能を確保する必要性がありました。
- また、学校用地としての土地の沿革や立地場所の特性、更には寺作業所跡地で計画していたテニスコート集約整備の用地確保、防災備蓄物資の保管場所確保等、複数の検討要素があったことから、これらを総合的に勘案し、「防災力強化」と「子育て支援」を軸に、跡地全体として付加価値の高い土地利用を図り、財政負担も可能な限り低減することをコンセプトとして跡地活用の計画を立案しました。
- この第一中学校跡地活用プロジェクトにおける「子育て支援」の主要施設として、ルクセンブルクパビリオン部材を再利用した子育て支援施設の整備を進めることとしています。



※令和8年3月時点におけるイメージ図であり、今後の検討により細部が変更となる場合があります。

【施設整備の方向性】

- 本市は、長年、こどもたちの学びの場として利用されてきた第一中学校の跡地において、大阪・関西万博で使用されたルクセンブルクパビリオン部材を再生・再利用した「子育て支援施設」を整備し、土地の沿革を踏まえた跡地有効活用、子育て支援の充実、資源循環を進め、更なるまちの魅力アップと移住定住促進、地域活性化を目指します。
- 本計画にて整備する「子育て支援施設」は、これまで地域子育て支援センターが担ってきた「地域子育て支援拠点」の中核としての機能と、新たなニーズでもあるこどもたちが天候に関係なく安全に遊べる「屋内遊戯施設」を一体的に備えるものとし、未就学児を中心としたこどもや保護者が気兼ねなく利用できる施設とします。
- 「屋内遊戯施設」としての機能の充実は、施設利用の敷居を下げることに伴い、遊びを通じてこどもたちの健全な発育が促される中で、保護者同士の交流やスタッフとのコミュニケーションが促され、子育てに係る日常の不安を軽減する効果が期待できます。「屋内遊戯施設」機能を併せ持つことにより、「地域子育て支援拠点」としての役割がより一層発揮されることが見込まれ、複合機能を活かし、全ての子育て親子に寄り添える施設を目指します。
- 万博パビリオン施設部材の再生・再利用により、万博レガシーの継承、SDGs達成への貢献、資源循環モデルケースの実現、国際交流の発展を目指します。
- 大規模災害等が発生した際には、周囲に整備される避難所等と連携し、こどもとその保護者等の安全を確保するための施設とします。

期待効果	子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の充実に伴う子育て世代の不安解消 屋内遊戯施設の整備に伴うこどもと保護者の満足度アップ
	移住定住促進	<ul style="list-style-type: none"> 市の認知度、ブランド力の向上
	地域活力の増進	<ul style="list-style-type: none"> 第一中学校跡地活用における重要施設
	SDGsの推進	<ul style="list-style-type: none"> 建築部材の再利用による、資源循環・SDGsに係る啓発効果
	国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> パビリオン再利用を契機とした国際交流（子育て・教育分野における連携等）
	地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 避難所としての機能を確保

第2章

アンケート等に基づくニーズ・課題の整理

【アンケート等の実施】

- 新たな子育て支援施設の整備方針を検討するため、利用者や施設管理者の意見を収集し、次のとおりポイント・課題を整理しました。

【交野市こども計画 アンケートより（R6年1月実施）】

質問項目	アンケート結果	検討ポイント
地域子育て支援拠点事業の利用について	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域子育て支援拠点の利用経験は16.9%、一方で、<u>今後利用したい／利用日数を増やしたい</u>は25.7% 	<p>市民の潜在ニーズがあり、<u>これまでより利用しやすい設えが求められている。</u></p>
市役所等への要望	<ul style="list-style-type: none"> ● 「充実してほしい支援」として、<u>「地域子育て支援拠点等の屋内の施設整備」</u>が挙がっており、併せて、<u>「情報提供の充実・相談体制」</u>が並ぶ。 ● さらに具体的に、<u>「オムツ替え・授乳スペースや段差解消等の“子育てのバリアフリー化”</u>も明記されている。 	<p><u>提供情報・相談窓口の充実や、オムツ替えスペースや授乳室の拡充が求められている。</u></p>
子育てに対する意識について	<ul style="list-style-type: none"> ● 「こどもに関して悩んでいること」では、「教育」が就学前で36.9%／小学生で47.3%と一番多く、<u>「食事や栄養」、「病気や発育発達」、「こどもの友人づきあい」</u>についても多くの保護者が悩んでいる。 ● 「自身や家庭に関して悩んでいること」では、「子育てにかかる出費」が就学前・小学生ともに約46%と一番多く、<u>「自分の時間が取れないこと」、「ストレスから子どもにきつくあたってしまうこと」、「子育てによる身体の疲れ」</u>について就学前の保護者が特に悩んでいる。 ● 「子育てが地域の人に支えられていると感じるか」では、「感じる」は60%超だが、<u>「感じない」</u>も30%以上いる。また、「支えてほしい相手」として、就学前では<u>「幼稚園・認定こども園・地域子育て支援拠点等の職員」</u>が高く、加えて<u>「同じ世代の子どもを持つ保護者」「近所の人」</u>も高い。 	<p><u>地域子育て支援センターは「遊び場」だけではなく、スタッフに相談できる設え／親同士がつながる設えが、より求められている。</u></p>

【地域子育て支援センター アンケートより（R7年1月実施）】

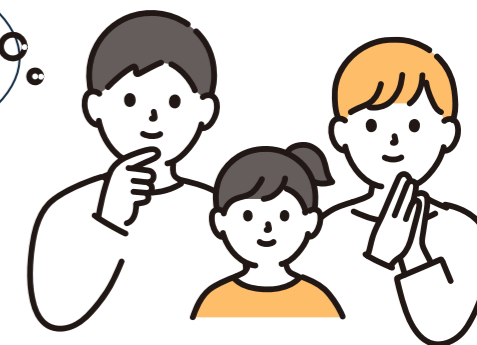
質問項目	アンケート結果	検討ポイント
利用実態	<ul style="list-style-type: none"> 「利用児の年齢」は0～2歳が中心（0歳40.6%、1歳34.7%、2歳30.7%）。3歳は13.9%、5歳以上5%も一定数。 「主な来館手段」は自動車48.5%で、徒歩26.7%、自転車18.8%、バス電車は少数だが一定数あり。 「施設の利用頻度」は、月1～2回が57%、3～5回が32%、10回までが5%、10回以上が6%であり、日常使いではないが定期的な利用が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 現施設の主な利用者層は、「<u>定期的に利用する0～2歳の母親</u>」であり、今後も同様の利用者層は多いと考えられる。
施設の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 「くつろげる」はい96%、「安心して遊べる」はい99%、「また来たい」はい99%と施設に対する満足度は非常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>施設スタッフの対応や気配り、施設の快適さによる満足度の高さ</u>と考えられる。 今後もスタッフがより働きやすいような施設側の設えが必要
交流のし易さ	<ul style="list-style-type: none"> 「気軽に話せる友達ができた」では、はい45%、いいえ55%となっており、自由記述でも「ひとりである時に職員が声をかけてくれてありがたい」といった意見もある。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>交流についての希望が一定ある。</u> 保護者同士等の交流促進も大切だが、主に利用しているこどもの月齢を考慮すると静かに過ごせる環境も必要。
あったらいいなと思うもの	<ul style="list-style-type: none"> 「欲しい情報」：遊び場16件、子育て知識（離乳食・発達等）16件、イベント14件、保育園/幼稚園14件、悩み相談3件、習い事3件、小児科1件。 「欲しいおもちゃ」：プラレール/トミカ等25件、ボールプール・トランポリン・平均台・トンネル遊び等の身体遊び10件、楽器3件、絵本1件、バウンサー1件 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は、<u>遊び場や子育て知識のハブ機能としての期待が高い。</u> <u>おもちゃについては、家では出来ない遊びやおもちゃが求められている。</u>

【地域子育て支援拠点 利用者ワークショップ等の実施（R8年1月実施）】

- 地域子育て支援センターだけでなく、他の地域子育て支援拠点も対象にワークショップ・アンケートを実施しました。

ワークショップにて出た意見（抜粋）

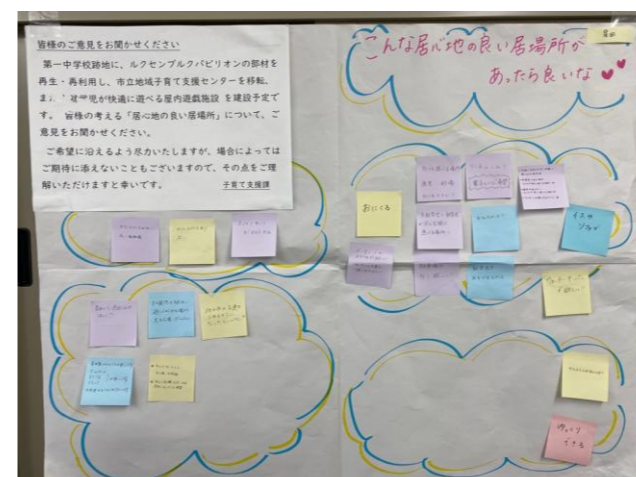
「ルクセンブルクを知りたい」「木育・自然を感じたい」「年齢別で遊べる空間（赤ちゃん幼児で分かれてる等）」「目の届く場所で子どもも遊べるような飲食スペース」「天気・子の年齢を気にせず多くの親子がのびのび遊べる場所」「自然と触れ合えることができる場所」「子どもを見守るあたたかいまなざしを持った大人の存在」「小学生と赤ちゃんを同時に連れていけるとありがたい」



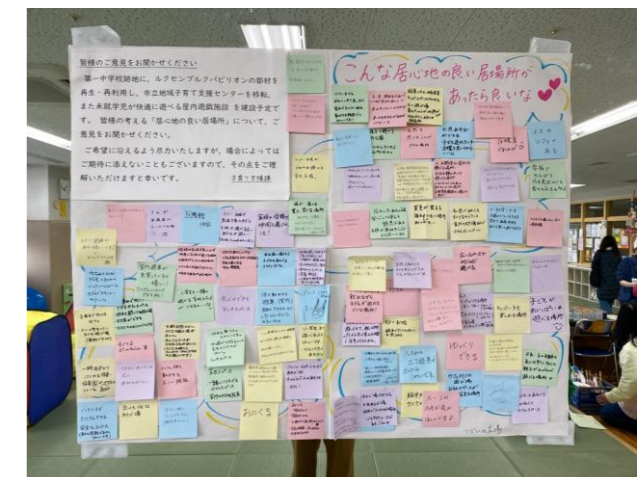
地域子育て支援センター



ぽらりすひろば



星田地域子育て支援センター



つどいの広場

利用者ワークショップ・アンケートから見えること

- 利用者の多くは施設に対して親しみと信頼感を持っており、現行の拠点への評価も高い状況です。
- 新施設に対しては、①ハイハイスペース、②土日・祝日の開館、③ゆとりある駐車場、④授乳室のアクセス、⑤就園児やきょうだいも一緒に使えるフレキシブルな空間、が特に求められています。
- 「世間話ができる・気軽につながれる」などの交流関係も、多くの利用者が求めています。

【地域子育て支援拠点 施設管理者アンケートのまとめ（R8年1月実施）】

- 施設運営上の課題を把握するため、地域子育て支援拠点（4施設）の管理者へアンケートを実施しました。

遊びスペースの広さ

「遊びスペースが狭い」は、回答者全員が同じ意見。平日午前がピーク（Q1：80%）で、イベント開催日はさらに混雑が集中（Q2：50%）。この混雑状況はヒヤリハットにも直結しており、「走り回りによる接触」も最多のリスクとして挙がっている。「広くすること」が安全対策・快適さの向上・支援の質の向上につながる重要テーマ。遊戯室はこれらを踏まえた面積で計画し、晴れた日には中庭・テラスへ自然に飛び出せる動線も合わせて設けることで、混雑をうまく分散できる可能性。

遊びスペースのエリア分け・保護者のくつろぎスペース

「年齢で完全に分けてほしい」は0件。「ゆるやかな仕切りで十分」が90%（Q6）。異年齢の子どもが同じ空間にいることへの困り感（Q5：90%）はあるが、完全分離は求めている。パーティションや腰壁、素材の変化で柔らかく境界をつくるデザインが求められている。加えて重要なことが、保護者の「くつろぎ」ニーズ。静かに過ごせる場所が「足りない」は67%（Q7）、ソファや畳スペースへの要望も上位意見（Q10）。「赤ちゃんの日」の満足度90%（Q9）も、低年齢専用の場づくりの必要性を示している。保護者も「ほっとできる」居場所があることが、リピート利用と孤立予防につながる可能性。

相談室の在り方・来やすさにつながる計画

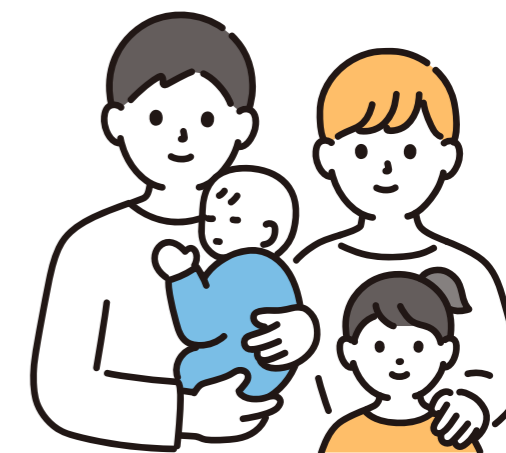
相談につながりやすい場所の1位は「特に決まっていない」（50%）。スタッフからの声かけで相談につながることも多く（Q18）、相談は個室で行うものではなく日常の遊び場から自然に生まれるものを示唆している。スタッフが動きながら会話しやすいオープンな動線と、必要なときに利用できる個室をセットで設けることが求められる。インフラ面では「倉庫は事務所の隣」（Q13）・「ベビーカー置き場は屋根・余裕のあるスペース・出入口近接が必須」（Q20：90%）・「駐車場の台数が足りない」（Q21：70%）と、スタッフの働きやすさと利用者の来やすさを同時に向上させる動線計画が求められている。情報発信はInstagram+LINE（各50%）が有効。

施設管理者アンケートから見えること

- 新たな施設に求められる方向性として、午前中の利用ピークに対応できる十分な遊び空間の確保、年齢差に配慮したゆるやかなゾーニング、保護者が安心して滞在できる静かな居場所の整備、玄関・ベビーカー置き場・駐車場を含めた使いやすい動線計画が重要であることが見えてきます。
- 単に遊ぶ場を広げるだけでなく、乳幼児と保護者が安全かつ心地よく過ごし、必要に応じて相談にもつながれる、居心地の良い施設として整備していくことが求められています。

【子育て当事者のニーズ整理】

- 「くつろげる」という居場所感は高く評価されており、さらに新たなつながりや友人関係を築ける環境への期待が複数の調査から示されています。
- 「話しかけるきっかけがほしい」「相談につながりやすい雰囲気」という声が複数あり、来所者が自然と打ち解けられる場づくりのさらなる充実が求められています。
- 「17時まで開いていると助かる」「日曜も開館してほしい」という要望が複数みられ、パパや祖父母なども参加しやすい開館体制への期待が高い状況です。
- 「専門的な相談を受けたい」「発達に不安のある子も安心して過ごせる場を」という声が複数あり、適切な機関に“つなぐ”機能が求められています。
- 地域子育て支援拠点への潜在的な利用意向は高く、アンケート等の調査結果を踏まえると、多様な背景を持つすべての家庭が等しく利用できる設計が求められています。



【施設管理者のニーズ整理】

- スタッフ全員が「遊びスペースの拡充」を求めており、「空間の確保」が、安全性の向上・利用者の満足度・余裕をもって子どもを見守れる環境を同時に実現する鍵となります。
- 多様な年齢層の交流を大切にしながら乳幼児が安心できるゆるやかなゾーニングと、開放的なレイアウトの両立を求める声が多数を占める状況です。
- 相談の多くは遊び場から自然に生まれる。スタッフが動きながら利用者に関われる動線設計が、日常の中に支援を溶け込ませる鍵となります。
- 執務室スペースの独立・遊戯室と片付け場所の隣接・大型遊具の常設など、準備・片付けの動線を整えることがスタッフの余裕と支援の質向上につながります。
- 子育て家庭が支えてほしい相手として、地域子育て支援拠点等の職員への期待が非常に高く、スタッフが関われる時間と環境の充実が施設の価値を高めると考えられます。



【ニーズから見える施設整備のポイント】

- 子育て当事者や施設管理者の意見・ニーズを踏まえ、次のポイントに留意し、施設イメージの具体化を進めます。

① 施設の役割は“日常の子育て安心基地”	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現拠点に対する満足度は高く、利用者が求めているのは日常的に使いやすく気持ちが安らぐ場所。新施設は、新たな利用者も含め、幅広く子育て家庭を受け入れることができるインクルーシブ（包摂的）な設計とします。 ✓ 安心を下支えするため、個室の相談室に加え、遊び場からちょっとした相談までスムーズに移行できる設えとし、自然体でスタッフが関与できるよう、動線や接点を工夫します。
① “遊び場の充実”だけでなく、プラスαの機能を	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 室内遊具施設としてのスペースや機能の充実を図ることと併せて、ニーズが高い「情報提供の充実」「相談体制の充実」に対応すべく、スタッフと保護者や、保護者同士のコミュニケーションが自然と促される設えとします。 ✓ 「遊び+情報+気軽な相談」がセットで求められていることから、ハード・ソフトの両面で対応を図ります。
① つながりの可能性と居心地の両立	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現拠点における交流の満足度という強みを活かしながら、施設側の設えと運営のアップデートによって、交流・つながりの質をさらに高めます。 ✓ 一方では、0～2歳を中心に静けさも必要。にぎやか／ちょっとした会話／静か／個別相談を“同時に成立”させる必要があり、「程よい賑わいの中でほっとできる場所」を目指します。
① 安全・安心を担保する“子育てバリアフリー”	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主な利用者層が未就学児とその保護者であるため、施設利用上の安全・安心は必須であり、授乳室やオムツ替えスペース、施設内の段差解消など、子育てバリアフリーを徹底します。 ✓ 屋根付きベビーカー置き場や駐車場の確保など、より多くの家庭が利用しやすくなるインフラを整えます。
① スタッフの働きやすさが支援の質につながる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 満足度が高い「人の支援」が効果的に機能する設えが重要であり、スタッフが回遊しやすい・見守りやすい・声かけしやすい施設面の工夫を図ります。 ✓ スタッフが自然に声をかけられる受付カウンター・通路・諸室の配置により、スタッフと利用者が自然と接点を持てる設えとします。



第3章

1. 基本理念
2. 利用者想定と展開イメージ
3. 求められる機能
4. 分棟連携・避難施設としての考え方

【基本理念】

「安心がつながる、和みの子育てパビリオン」

- 本施設は、未就学児と保護者が安全安心に過ごせる「屋内遊戯施設機能」と、「地域子育て支援拠点機能」を核に、子育て家庭と地域とのつながりを育む“居場所”として整備する。
- 併せて、2025年大阪・関西万博で使用されたルクセンブルクパビリオン部材を再利用することで、限りある資源を活かしながら新たな公共価値を生み出す“循環（サーキュラー）”を体現する拠点とする。
- 本施設は、ハブとなる建物を中心に4棟のパビリオンを連携させ、「動」と「静」、「遊び・交流・相談支援」といった機能を整理し、日常的に通える「家族にとって居心地の良い空間＝ファミリーラウンジ」として、子育て世帯に保護者しまれる空間づくりを目指し、以下の4本柱をコンセプトとする。

【コンセプト】

柱1：循環デザイン

- ✓ 再利用部材は構造として再構成・再配置し、資源の有効活用を実装するとともに、周辺環境も踏まえ、施設体験として循環を感じられる動線をつくる。
- ✓ 子・親（保護者）・祖父母といった3世代利用や、施設を利用したことも達がいずれ親となり帰ってきてもらえるような世代間の循環をイメージし、施設の魅力を高める。

柱2：分棟連携の「子育て共有スペース」

- ✓ 「対象年齢」「目的」「快適性」ごとに分けられた各棟が“ちょうどいい空間”を実現。機能と交流の共用スペースを設け、分棟でありながら一体的に施設を利用できる。

柱3：親子の「ファミリーラウンジ」

- ✓ 遊び・交流・相談が“気がねなくできる”居心地を最優先。「初めての人からリピーターまで」「気軽な相談から深い相談まで」それぞれの居場所がある。（空間の段階性）

柱4：遊びの「DokiDokiパビリオン」

- ✓ 大型遊具を軸として、こども達が、何度でも来たくなる“わくわく・ドキドキする空間”を実現する。
- ✓ 各棟の特性を活かし、動きのある遊びから、静かな遊びまで、すべてのこども達にひらかれた遊び場をつくる。

【利用者の想定】

- 施設の利用者は、設置趣旨を踏まえ、こどもとその保護者（祖父母世代等も含む）とする。
- 対象とするこどもは、乳幼児・未就学児を基本としつつ、屋内遊戯施設については小学生まで利用可能とする。
- こどもの安全や快適性を保つため、各部屋（施設）に利用定員を設けるとともに、予約制の導入を検討する。
- パビリオン再生・再利用という施設特性を踏まえ、屋内遊戯施設については市外住民も利用可能とする。市民と市外住民の配分については、稼働状況を見ながら検討することとし、市民の利用は無料、市外住民の利用は有料とする。

【機能の施設展開イメージ】

● 施設延床面積 約750m²

● 施設定員 140～150人程度（ピーク同時利用時）

建物区分	延床面積	主たる機能	想定 児童年齢	想定 定員	仕様	イメージ
管理棟（新築）	294m ²	施設全体の管理等	—	—	事務室、衛生施設	施設全体の管理施設、授乳室・トイレ、ルクセンブルク紹介コーナー
		地域子育て支援拠点	0～3歳	22人	遊戯室、園庭	乳幼児と保護者が安心して遊び・交流できるスペース【市民専用】
パビリオン （Act1：4号棟）	116m ²	屋内遊戯施設	3歳～ 小学生	28人	多目的ホール	大空間を活かした遊戯室、イベントや講座にも対応
パビリオン （Act2：5号棟）	115m ²	屋内遊戯施設	3歳～ 小学生	34人	大型遊具	パビリオンの高さを活かした大型遊具、身体を動かし楽しく遊ぶスペース、すべてのこども達に開かれた遊び場
パビリオン （Act3：6号棟）	131m ²	屋内遊戯施設	0歳～ 未就学児	38人	大型遊具、飲食エリア	乳幼児を遊ばせながら保護者が休憩・交流できるスペース、その子に合った過ごし方を選べる遊び場
パビリオン （多目的室：8号棟）	87m ²	屋内遊戯施設	0歳～ 未就学児	24人	ベビー専用エリア	乳幼児と保護者が安心して遊び・交流できるスペース

※想定児童年齢は、今後の設計仕様のベースとなるものであり、施設運用における詳細は引き続き検討する。

※想定定員は、親子の合計数。保育施設の面積基準であるこども1人あたり1.65m²～3.3m²/人の最大である3.3m²により算出。

【施設に求められる機能と考え方】

管理・共用	【スタッフ・管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務所は視線が開けた配置とし、スタッフが利用者に自然に声をかけられる動線を確保する。 ・ 安全管理のため、建物全体を確認できる設備や、施錠可能な収納等を設ける。
	【衛生等】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の特徴を踏まえ、こども用トイレ・おむつ替えスペースを設置する。 ・ 衛生管理・感染症対策として、遊戯室の配置や動線を踏まえ、手洗い場を設置する。 ・ プライバシーに配慮しつつ、家族で利用できる授乳室を設置する。
	【イベント・講座】	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントや発表会、講座・研修に対応できる多目的スペースを遊戯室と分離して設置する。 ・ 多目的スペースは、他の機能との並行稼働が可能な配置・動線とする。
地域子育て支援拠点	【遊び・交流】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児専用の遊戯室を整備するとともに、園庭を併設することで安心して外遊びができ、家庭同士が交流できる場所を確保する。 ・ 遊戯室はクッション性のある床やソフト遊具を配置し安全性を高める。
	【相談・支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児への不安に対応する機能の核として、遊戯室に隣接した個室相談室を設ける。
屋内遊戯施設	【屋内遊戯室】	<ul style="list-style-type: none"> ・ パビリオンの床面積と天井高を活かし、エリアのコンセプトに併せて大型遊具等を設置する。 ・ 遊戯室は年齢ゾーン分けにより怪我や事故を防ぐ区画とするとともに、遊具も含めインクルーシブな視点で設計する。
	【利用者支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者がこどもを目で追いながら、リラックスできる見守りスペースを設ける。 ・ 机・椅子を備えた飲食スペースを設け、気軽な相談環境としても活用する。
その他	【エントランス等】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出入口直近のピロティ空間にベビーカー置き場を設ける。 ・ 車移動に対応するため十分な駐車場を整備する。（エリア全体として駐輪場も確保）
	【屋外環境】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する防災公園やボール遊びが可能な芝生広場との連携を踏まえ、交流や休憩を見据えた屋外環境（ピロティ・デッキ等）を整備する。

【分棟連携の考え方】

- 本施設は、ルクセンブルクパビリオンの鉄骨躯体の再生・再利用を前提としていることから、5つの建物から構成することとなる（分棟）。
- 分棟配置は、一般的に、外壁面積の増加や基礎・屋根・連結部分等の施工量増加等から、コストの増加要因となるが、一方では、子育て支援施設としての利用を踏まえた場合、下記の優位性があることからメリットも大きい。

区分	具体的な効果	優位性
1. 安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児・児童の年齢別利用（転倒・衝突リスク低減） ● 感染症対策（空間分離によるクラスター抑制） ● 避難の迅速性（避難口を棟別に確保） 	こどもの安全性の向上
2. 利用環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 動と静の空間分離（居心地の向上・ストレス軽減） ● 騒音の低減（走り回る音・泣き声・イベント音声等を物理的に遮断） ● 混雑の分散、動線の分離 	利用者満足度の向上
3. 運営の柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間帯別・年齢別等、運用上の柔軟性向上 ● イベントや研修等、事業展開の自由度向上 ● 部分閉鎖による効率運用（使わない棟は空調停止等） 	運営・事業展開の柔軟性が向上 (指定管理を予定)

【避難施設としての考え方】

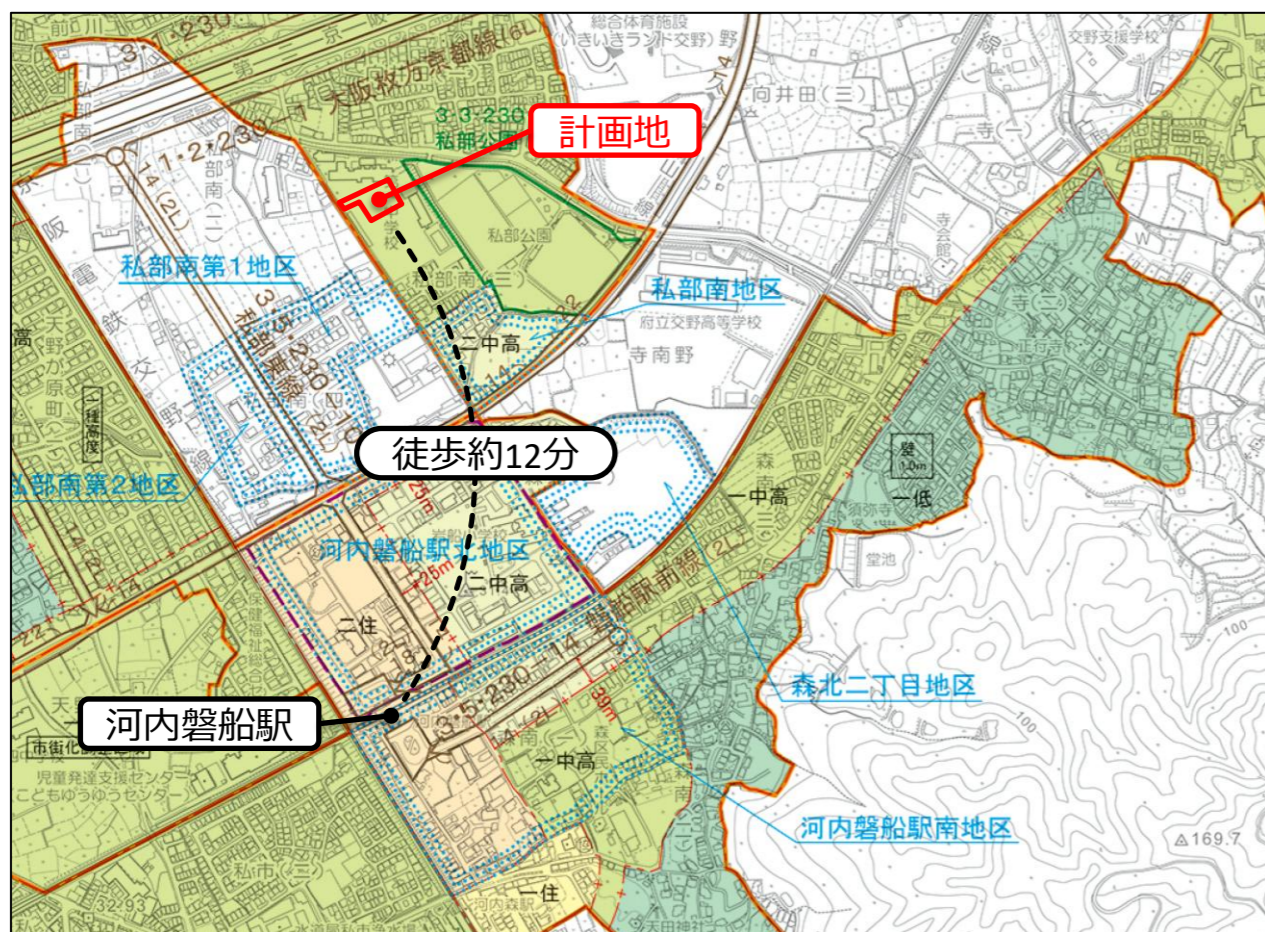
- 本施設は、乳幼児をはじめとしたこどもたちとその保護者が快適に過ごせる機能として、こども用トイレや授乳室等を整備する。また、分棟であることから、構造上、複数の独立した空間が確保される。
- 本施設は、「（仮称）私部南地域防災拠点」のエリアに位置しており、大規模災害が発生した場合には、その構造・機能特性を踏まえ、特に乳幼児等のこどもがいる家庭の避難施設としての活用が求められる。
- これらのことから、引き続き市全域の防災拠点の方針・考え方との整合を図り、施設整備後において指定避難所として指定する予定。

第4章

1. 計画地の概要
2. 敷地及び意匠基本方針
3. 構造基本方針（パビリオン部材再利用方針）
4. 外構・設備基本方針
5. 配慮事項

【計画地基本情報】

所在地	大阪府交野市私部南3丁目1-番1号（第一中学校跡地の一部）
敷地面積	約1800m ²
用途地域	第一種中高層住居専用地域
周辺環境	避難所、防災公園、芝生広場兼テニスコート
建ぺい率	60%
容積率	200%
高さ制限	第2種高度地区
日影規制	4h, 2.5h/4m
防火地域	法22条区域



【敷地条件及び立地特性】

インフラ	電気（関西電力）、市上下水道、ガス（中圧ガスをガバナーで低圧化予定）
立地特性	<ul style="list-style-type: none"> 市の中心部に近い立地 公共交通アクセス・車アクセスの両立がし易い立地 都市計画公園（私部公園）及び市立総合体育施設（いきいきランド交野）に隣接

今後10年間で積極的に取り組んでいく内容



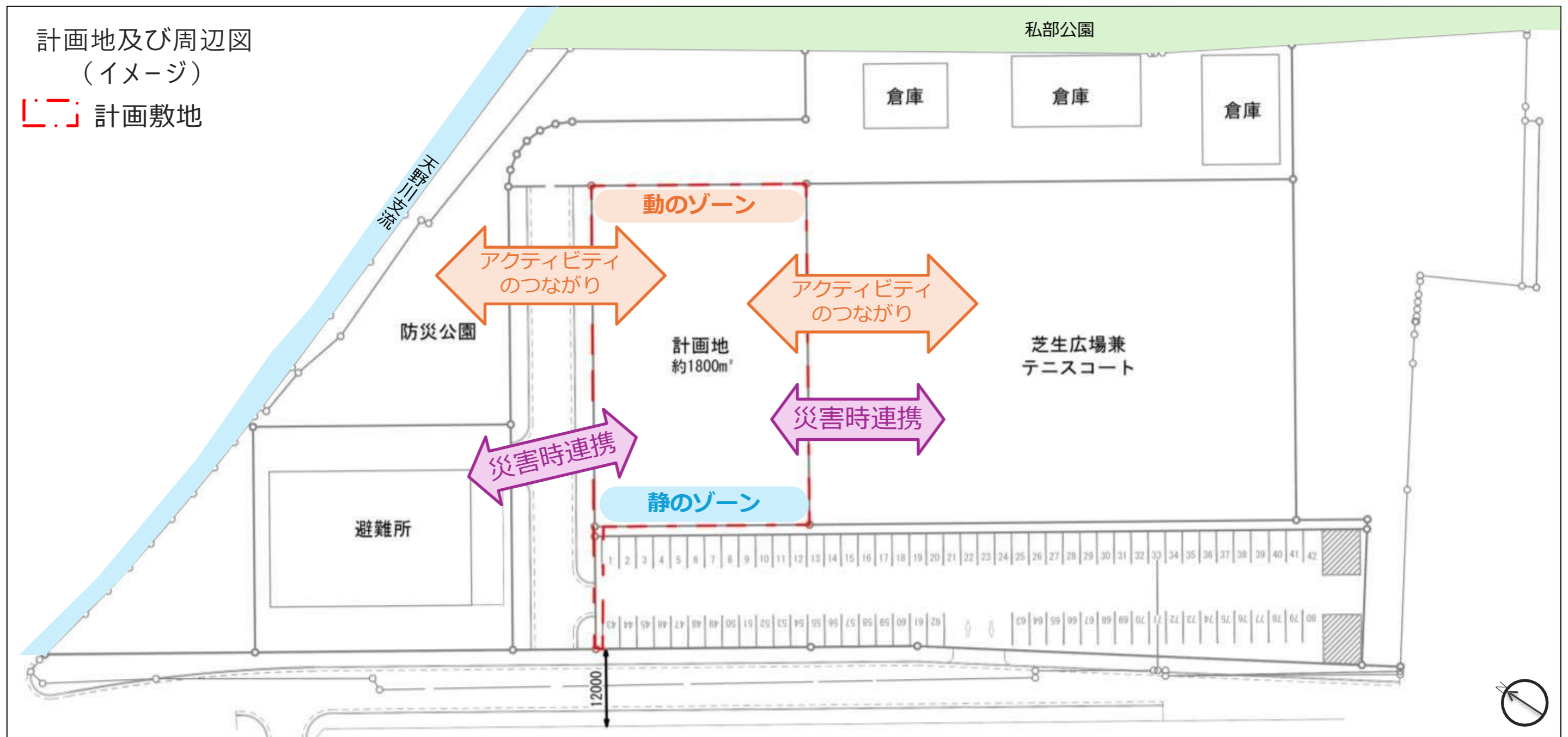
※都市計画マスタープランより

【敷地に係る基本方針】

- ・日常的な使われ方から、イベント等の開催、また、大規模災害発生時などを考慮し、防災公園や周辺とのつながりを意識した計画とする。
- ・ルクセンブルクパビリオンの分棟配置を尊重し、当計画においても分棟配置とする。
- ・敷地上部の東側を<動>のゾーン、敷地下部の西側を<静>のゾーンとしたゾーニングとする。

【建物に係る意匠基本方針】

- ・ルクセンブルグパビリオンの意匠を継承し、黒（ダークグレー）を基調とし、適宜赤青ラインを入れる。
- ・玄関エリア等の共用部分に、ルクセンブルクと日本の両国関係が分かる展示パネル等による紹介コーナーを設ける。
- ・子育て世帯が利用したいと思える周辺と繋がる開かれた施設とする。
- ・防災公園との繋がりを意識し、大きなピロティ空間を持つ建物正面玄関を防災公園に向けて配置する。



【構造方針】

- ・ 管理棟（新設）構造種別：S造
- ・ パビリオン部材は、柱梁等の主要な構造部材を再利用することを前提とする。

再利用部材の構造検証方針(基本設計以降)

- ・ 再利用構造物の形式は、ブレース造であり、水平力はブレース部材及び接合部で負担しているため、接合部の摩擦係数の確認が重要である。よって、摩擦接合部のすべり係数試験を行うこととする。
- ・ 部材の強度確認のため、抜き取りで材料の引張強度試験を行う。
- ・ 溶接切断後に部材厚が欠損になった場合は、補強PLを行う。
- ・ 部材の解体及び運搬時に発生した部材のひずみ直しを行う。
- ・ 部材全域を調査後にさび止め塗装部のタッチアップを行う。

構造形式の基本方針

- ・ 再利用構造物は、ブレース造であり、ブレースを外周に配置した閉じた空間で構成されているため、一体化の増設は困難である。よって、各棟の再利用構造物と、新設の管理棟は、それぞれ構造上は独立で支持する形式で計画する。その際、各棟の水平時の変形を考慮して、各棟が地震時及び暴風時に衝突しない計画とする。

耐震設計の方針

- ・ 本施設は、人命及び物品の安全性確保が必要な上、災害時の避難所としても機能できることが望ましいと考え、耐震安全性の目標として、大地震後、構造体に大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保を図る。保有すべき耐震性能は、大地震に対して比較的小さな損傷にとどめ、直ちに補修を必要とするような耐力低下をさせないこととする。よって、耐震安全性の分類では、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解析」によるところのⅡ類相当とする。

基礎形式の方針

- ・ 基礎計画に当たり重要なことは、上部構造物を確実に支持し、有害な沈下を生じさせないことである。また、基礎形式は上部構造の規模と、建設地の地盤特性によって決定される。
- ・ 地盤調査資料によれば、本地質性状は、上層から盛土（GL±0～-0.6m）、沖積層（GL-0.6～4.7m）、それ以深は、洪積粘性土層と洪積砂礫層が互層状態で連続している。N値では、GL-20mは20程度、それ以深ではおおむね30～50である。
- ・ 本建物の規模は鉄骨造の平屋建て（高さが比較的高いので若干重量増である）なので、GL-10m（N値20程度）の洪積粘性土層を支持層とする杭基礎または、べた基礎か布基礎下に地盤改良工法を併用する直接基礎で計画することが考えられるので今後の検討課題である。

【構造方針（パビリオン部材リスト）】

1. 再利用部材（総括）

No.	部材種別	搬入状況	再利用方針	備考
1	鉄骨部材（柱・梁・筋交）	搬入済	再利用前提	
2	鉄骨部材（胴縁…外壁下地材）	搬入済	<u>非再利用</u>	外壁仕様等を踏まえ、再利用不可とする（リサイクルへ）
3	開き戸	搬入済	再利用検討	外壁仕様・施設機能を踏まえ、引き続き精査・検討
4	自動ドア	搬入済	再利用検討	外壁仕様・施設機能を踏まえ、引き続き精査・検討
5	パッケージエアコン（配管除く）	搬入済	再利用前提	個別に状態の精査が必要
6	照明器具（屋内・屋外）	搬入済	再利用前提	個別に状態の精査が必要
7	外構（インターロッキング）	搬入済	再利用前提	
8	キュービクル	搬入済	<u>非再利用</u>	設備仕様を踏まえ、再利用不可とする（他の公共施設での活用を検討）

2. 鉄骨部材集計表

棟名	柱（本）	梁（本）	筋交（本）	備考
4号棟	44	76	148	設計時に、現物確認による個別精査が必要
5号棟	43	84	193	
6号棟	52	86	198	
8号棟	27	67	99	

【外構基本方針（駐車場・駐輪場・アプローチ）】

- 駐車場：エリア全体の機能も踏まえ、敷地西側に隣接する敷地に70～80台程度確保する。歩行者動線を踏まえ安全対策に留意する。
- 車椅子対応駐車区画：駐車場区画の内、当該施設及び避難所に近い場所に複数区画確保する（2～4区画程度）。
- 駐輪場：避難所側に必要台数分設置する。
- 建物外構は基本的に芝とする。

【設備基本方針（機械・電気）】

- 低圧受電を採用（契約電力50kW未満） 高圧受電設備の設置を回避するため、電灯・コンセント49kVA、動力49kWの低圧受電を前提とした計画とする。
- 空調はGHP（ガスヒートポンプ）方式を採用 電気負荷の低減を目的に空調熱源をガスとし、電力需要の抑制とエネルギーのベストミックスを図る。
- ガス供給は低圧ガス引込みとする。また、隣接地に設置されるガバナールームを利用する計画(中圧→低圧)とする。
- 照明はLED化+制御最適化でピーク電力を抑制 高効率LED照明と運転制御の最適化により、低圧受電範囲内での運用を可能とする。
- 配電方式：新築棟に引込開閉器盤を設置、移設棟4棟へ幹線供給 新築1棟に引込開閉器盤を集約し、既存移設棟4棟の各分電盤へ幹線で配電する構成とする。

【安心・安全（見守り・死角・避難・防犯）】

- ・ 屋内遊戯室への扉はガラス付きで視認性確保、受付カウンターを見通しの良い位置に配置、安全管理のため防犯カメラを各所に設置
- ・ 入館手続きの利便性向上と安全管理を図るため、施設入口に受付カウンター＋緊急連絡設備（非常通報ボタン）
- ・ 各棟から屋外への避難経路確保、誘導灯・避難標識、消火器・AED・非常用放送設備整備
- ・ 床材は滑りにくい素材、指挟み防止扉・緩速クローザー、ガラス面に衝突防止フィルム、駐車場との間に安全対策

【インクルーシブ／ユニバーサルデザイン】

- ・ 管理棟→各棟は段差なく接続、廊下有効幅1,800mm以上（車椅子対応）
- ・ 身障者用駐車スペースを玄関近くに、ベビーカーはピロティ下に屋外保管スペースを確保
- ・ 多機能トイレ（オストメイト対応）、こどもトイレ・おむつ替えスペース・授乳室はプライバシー確保し、家族で利用可能
- ・ ピクトグラムによる分かりやすいサイン計画、色覚対応サイン、多言語表記
- ・ 遊具についてもインクルーシブ／ユニバーサルデザインの視点をもって設計・配置

【衛生・感染症配慮（手洗い・ゾーン分け）】

- ・ タッチレス水栓・石けん液ディスペンサーを各棟からアクセスしやすい中心部に集中配置
- ・ 授乳室とこどもトイレ・おむつ替えスペースを引戸で分離、おむつ処理BOX設置
- ・ 各トイレにSKシンクを設置（清掃・メンテナンス性向上）
- ・ 施設機能を踏まえた換気システムの検討

【環境配慮（脱炭素・長寿命化・SDGs）】

- ・ LED照明＋昼光・人感センサーによる自動制御、空調はGHP採用（電力ピーク抑制・低圧受電維持）
- ・ ルクセンブルグパピリオンの部材活用、構造部材および設備は再利用前提に強度確認・精査後判断、意匠上でSDGsを表現
- ・ 耐久性の高い部材選定、管理維持のしやすい計画

【周辺施設アクティビティとの関係性】

- ・ 防災公園：各棟の周囲にデッキを設置し、直接出入り可能な開口部を設け、日常的な屋外遊びだけでなくイベント等でも連携可能、各棟からの非常口を直接確保、外壁・開口部は開放的なデザイン
- ・ 避難所：隣接地ガバナールーム（中圧ガス）から低圧引込みを共有（GHP電源自立型室外機を検討）、大規模災害時は避難所として活用
- ・ 芝生広場兼テニスコート：地域子育て支援センターの遊戯室は園庭を挟んで距離をとる配置、テニスコート側にウッドフェンス等の設置で景観改善

第5章

1. 規模概要・諸室計画
2. ゾーニング・動線・屋外の計画
3. 各棟の利用のされ方イメージ
4. 基本計画図・イメージパース

【施設概要】

- ・施設延床面積：約750m²
- ・5棟配置計画（管理棟+パビリオン棟(4棟)）

【諸室計画（部屋構成・面積）】

建物区分	延床面積	エリアの機能	イメージ	想定 児童年齢	
管理棟（新築）	294m ²	事務室、授乳室、トイレ、ルクセンブルク紹介コーナー	施設全体の管理施設	0歳～小学生	
		地域子育て支援拠点部分（遊戯室、相談室、園庭）	乳幼児と保護者が安心して遊び・交流できるスペース【市民専用】	0～3歳	
パビリオン （Act1：4号棟）	116m ²	多目的ホール、収納倉庫	大空間を活かした遊戯室、イベントや講座にも対応	3歳～小学生	動的ゾーン
パビリオン （Act2：5号棟）	115m ²	キッズランド（大型遊具）	パビリオンの高さを活かした大型遊具、身体を動かし楽しく遊ぶスペース、全てのこども達に開かれた遊び場	0歳～未就学児	
パビリオン （Act3：6号棟）	131m ²	キッズホール（大型遊具、飲食スペース）	乳幼児を遊ばせながら保護者が休憩・交流できるスペース、その子に合った過ごし方を選べる遊び場	0歳～未就学児	静的ゾーン
パビリオン （多目的室：8号棟）	87m ²	ベビーガーデン	乳幼児と保護者が安心して遊び・交流できるスペース（地域子育て支援センターとの併用も想定）		

※パビリオンのエリア名称は仮称

【ゾーニング方針（環境・年齢別）】

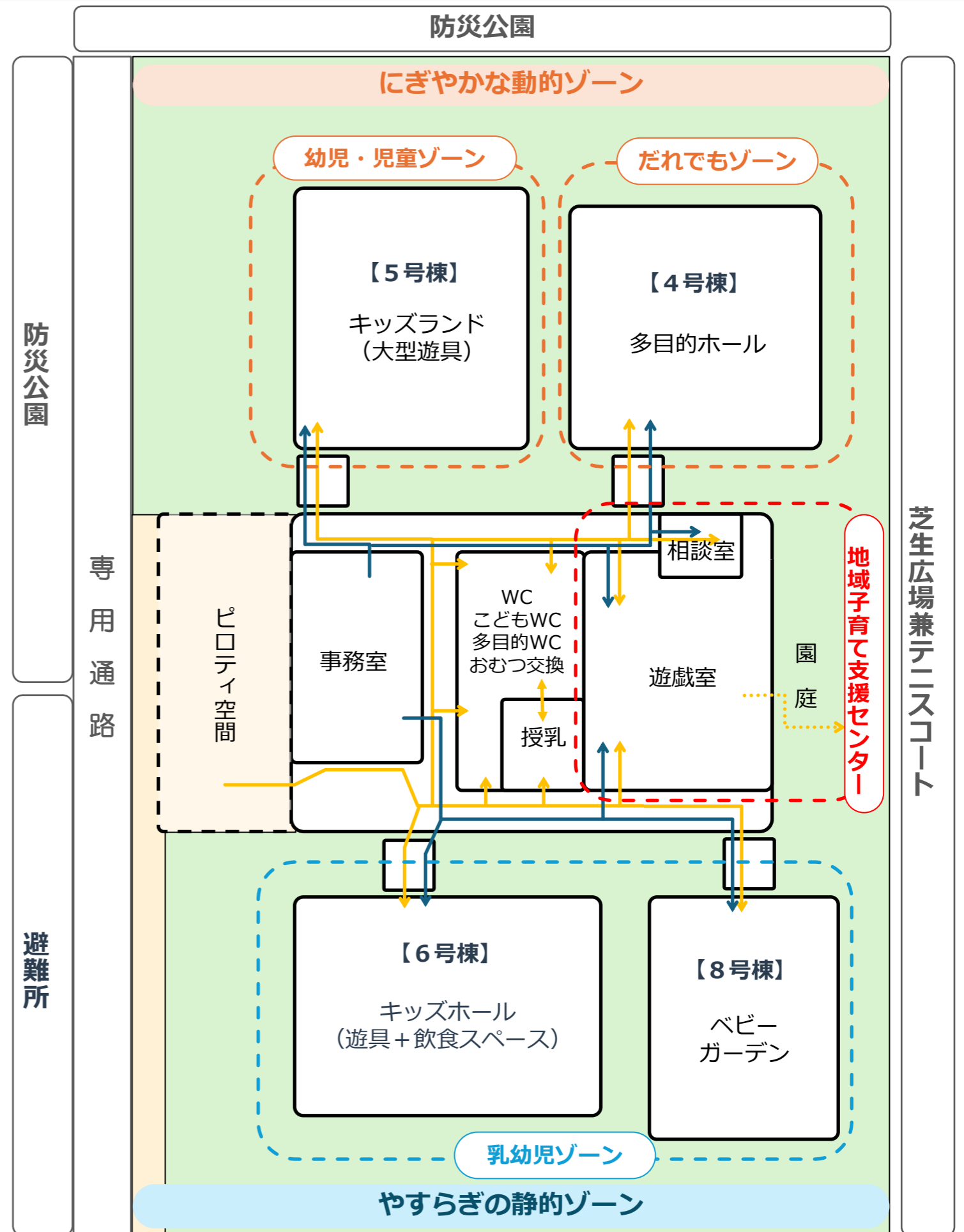
- ・環境（にぎやかな動的ゾーン / やすらぎの静的ゾーン）
- ・年齢区分
（乳幼児ゾーン / 幼児・児童ゾーン / だれでもゾーン）

【動線計画（利用者・スタッフ）】

- ・利用者動線：玄関→受付→各ゾーンへの明確な誘導
ベビーカーは屋外に置場確保（ピロティ下）
→ 地域子育て支援センター利用者動線
- ・スタッフ動線：全ゾーンを見通せる管理動線
→ スタッフ動線

【屋外計画（外構・園庭・雨天対応・緑化）】

- ・縁側デッキ：各パビリオン棟の外周を縁側デッキで囲むことで、施設の外と内を自然につなぐ。また、施設利用者だけでなくエリア利用者の憩いのスペースとする。
- ・駐車場側：植栽帯等を施設と駐車場との間に配置し、エリアを柔らかく区切る。（市道まで歩行専用通路確保）
- ・外構部分：芝、一部舗装（雨水対策を考慮）
- ・ベビーカー置場：雨風対策として、ピロティ空間に配置
- ・通路：各パビリオン棟と管理棟を段差なくつなぐ。



【パビリオン棟の利用イメージ】

にぎやかな動的ゾーン**4号棟**

機能：多目的ホール

利用イメージ

- 家族でのびのび体を動かせる、広々とした空間
- 親子向けイベントや講座、多彩な活動の場
- マット等を広げて遊べる日や、こどもの歌声が響く日も
- いつもと違う使い方が、また来るきっかけになる
- 利用者のニーズに応じた、柔軟な活用と展開
- 人が集い、交流が広がるにぎわいの拠点
- 地域と家庭をつなぐ、開かれた場所



多目的ホールのイメージ

5号棟

機能：キッズランド（大型遊具）

利用イメージ

- よじ登って、くぐって、すべって、体全部で遊ぶ
- 雨の日も関係なく遊べる
- 体を動かしたい子が、思いきり動ける
- 見通せる。安心して見守れる
- 大型遊具が常設されている。
- こどもが体の使い方を覚えていく場所
- 「明日も行きたい」とこどもが言う場所
- 遊び疲れて、ぐっすり眠れる1日に



キッズランドのイメージ

【パビリオン棟の利用イメージ】

やすらぎの静的ゾーン**6号棟**

機能：キッズホール
(遊具＋飲食スペース)

利用イメージ

- 木のおもちゃで、素材のぬくもりを感じながら遊べる場所
- 見守られながら、自分のペースで遊びに挑戦
- 少し離れて見守る、はじめの一步に寄り添う空間
- 遊びとひとやすみを、同じ空間でゆったり楽しめる
- ほっとできる、保護者同士が顔なじみになる
- スタッフとちょっとした相談ができる



キッズホールのイメージ

8号棟

機能：ベビーガーデン

利用イメージ

- ゴロンと寝転べる、赤ちゃんのための床
- ハイハイもよちよちも、ここなら安心
- 赤ちゃんが静かに遊べる場所
- 0歳が主役になれる時間と場所
- 静かに、ゆっくり、赤ちゃんのペースで
- 囲われた安心感の中で、はじめての遊び
- 月齢の近いこどもを持つ保護者同士が、自然と顔見知りになれる



ベビーガーデンのイメージ

【管理棟の利用イメージ】

管理棟

機能：事務室、地域子育て支援センター専用部分（遊戯室・相談室・園庭）、ルクセンブルク紹介コーナー、授乳室、トイレ（おむつ交換スペース、こども用含む）

利用イメージ

- こどもトイレ、多目的トイレ、それぞれに合った水回り
- 授乳も、調乳も、ゆっくりと落ち着いた空間で
- 家族で気兼ねなく使えるおむつ替えスペース、授乳スペース
- スタッフが見守る施設の拠点
- 「ちょっと聞いていいですか」が言いやすい場所
- 相談したいけど何から話せばいいか迷ったら、まずここへ
- 一人で抱え込まなくていい。施設に立ち寄りことから
- ルクセンブルクについて知ることができる、世界への入口



授乳室のイメージ



内観パース(玄関)



相談室のイメージ

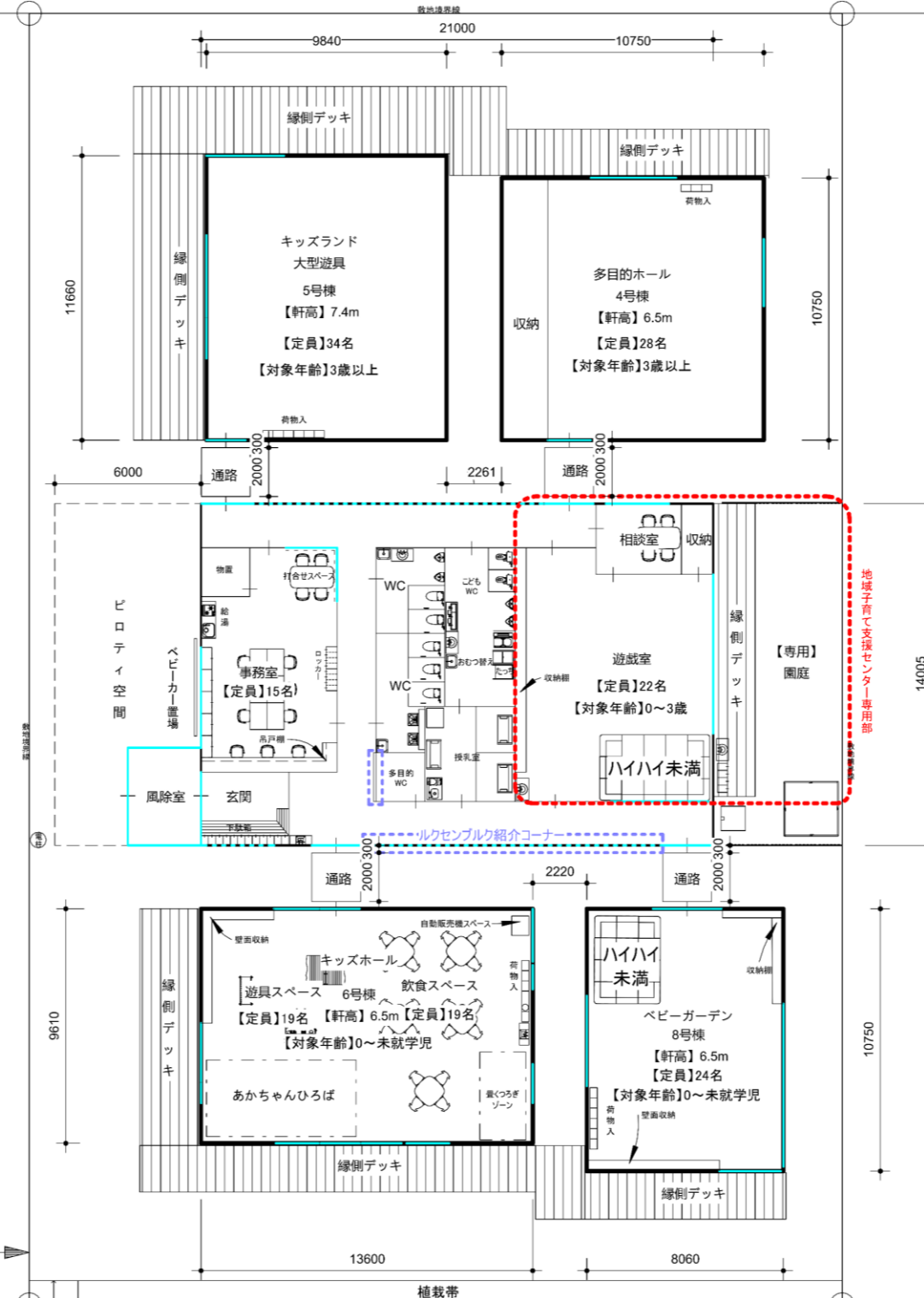
基本計画図

- パビリオン棟部材再利用を想定
- 新設想定
- ガラス面または窓
- 地窓またはハイサイドライト

防災公園

芝生広場
兼テニスコート

避難所



住所	大阪府交野市私部南3丁目1番1号		
敷地面積	約1800m ²		
都市計画区域	市街化区域		
用途地域	第一種中高層住居専用地域		
建蔽率	60%		
容積率	200%		
防火地域	法22条区域		
日影規制	4h, 2.5h/4m		
高度地区	第2種高度地区		
その他の区域等	-		

名称	ルクセンブルクパビリオン部材再利用による子育て支援施設 基本計画		
種別	配置図	縮尺	1/250(A3)



外観パース① 鳥観



外観パース② 建物正面



外観パース③ 正面上方より



外観パース④ 背面上方より



外観パース⑤ 西より



外観パース⑥ 南西（駐車場側）より



外観パース⑦ 南より



外観パース⑧ 南東（芝生広場側）より



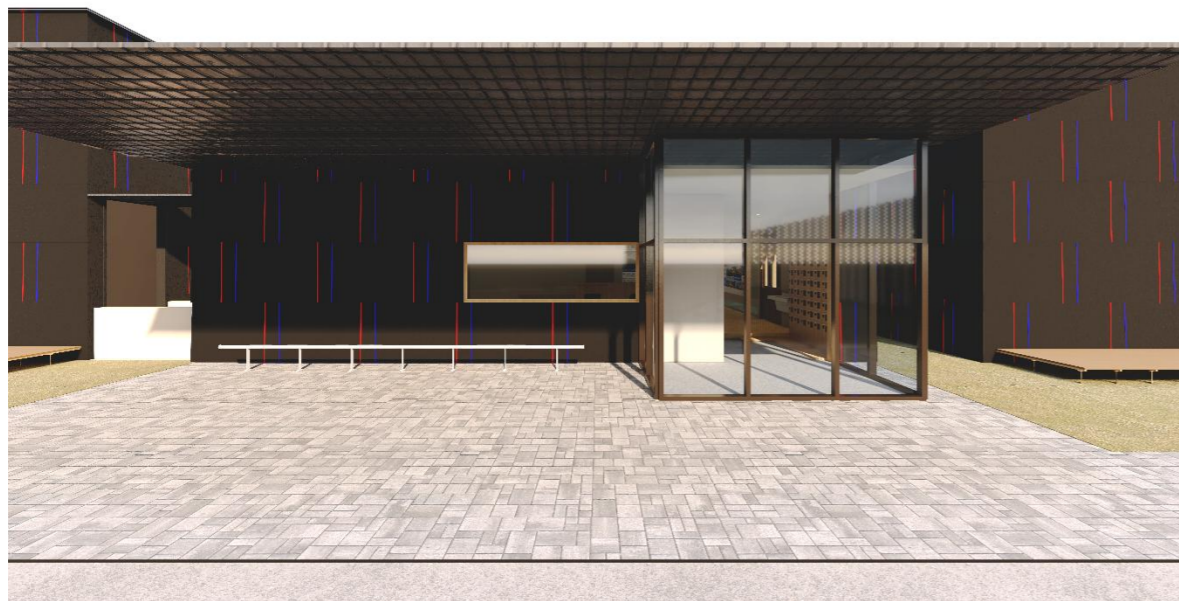
外観パース⑨ 東より



外観パース⑩ 北東より



外観パース⑦ 正面玄関



内観パース 正面玄関



第6章

整備手法 / 管理運営 / 開館計画案

【整備手法】

- ・整備手法：直営発注（従来方式）
- ・令和8年度に、「本施設（大型遊具含む）」、「芝生広場兼テニスコート」、「駐車場」に係る設計業務を発注予定。

【管理運営】

- ・運営手法：指定管理
- ・スタッフ配置：地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業に求められるスタッフを中心に配置（保育士等・施設管理員等）

【開館計画（案）】

- ・下記案をベースに、引き続き検討する。

	屋内遊戯施設等	【新】地域子育て支援センター	【旧】地域子育て支援センター
開館日	月～日（祝日含む）		月～金曜日、 第2・4土曜日
休館日	周辺施設を考慮し検討		年末年始、祝日、日曜日 第1・3・5土曜日
開館時間	9：00～18：00		9：00～17：00 土）10：00～16：30
お部屋開放	9：30～17：30 3部制（入替）	9：30～17：00	10：00～16：30 土）10：00～16：00
利用方法	予約制	いつでも利用可能（交野市民のみ）	いつでも利用可能（交野市民のみ）
利用料金	市民（無料）、市外住民（有料）	無料	無料

第7章

概算事業費 / 整備スケジュール / 今後の留意事項

【概算事業費】

1. 新子育て支援施設の概算建設工事費

単位：千円

事業費項目		概算事業費（税抜）	備考
新子育て支援施設 建設工事費	建物工事費	203,000千円	建物、直接仮設、土工、地業
	設備工事費	72,000千円	電気設備、機械設備
	外構工事費	60,000千円	
	諸経費等	108,000千円	共通仮設、諸経費等
合計		443,000千円	（税込金額487,300千円）

※ 屋内大型遊具・駐車場等の整備費は含まない。また、令和7年末の物価水準に基づく概略的な整理であり、今後の社会経済状況の変化に伴う影響は見込んでいない。

※ 本件施設と同等の機能を、パビリオン部材を再利用した分棟整備（5棟）ではなく、1棟の建物として新築整備した場合の概算建設工事費は、452,000千円（税抜）、497,200千円（税込）となる。

2. 新施設及び芝生広場等を含めた全体概算事業費

単位：千円

施設区分	概算事業費 （税込）	財源内訳			交付税措置 見込み額	実質 市負担額	備考
		国庫補助	起債	一般			
新子育て支援施設	487,300	207,150	252,100	28,050	74,280	205,870	
（内：屋内遊戯施設）	404,300	202,150	181,900	20,250	54,570	147,580	面積按分※1
（内：地域子育て支援センター）	83,000	5,000	70,200	7,800	19,710	58,290	面積按分※2
屋内大型遊具	55,000	27,500	24,700	2,800	7,410	20,090	※1
駐車場（70～80台程度）	66,000	33,000	29,700	3,300	8,910	24,090	※1
芝生広場兼テニスコート	150,000	75,000	67,500	7,500	20,250	54,750	※1
合計	758,300	342,650	374,000	41,650	110,850	304,800	

※ 工事監理費は含まない、設計時の仕様変更等に伴い事業費が変わることがある。また、令和7年末の物価水準に基づく概略的な整理であり、今後の社会経済状況の変化に伴う影響は見込んでいない。

※1 「地域未来交付金（補助率1/2）」 + 「一般補助施設整備等事業債（充当率90%、交付税措置率30%）」

※2 「次世代育成支援施設整備交付金（既定額）」 + 「こども・子育て支援事業債（充当率90%、交付税措置率30%）」（関係機関調整中）

【ランニングコスト試算】

- ・ 地域子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業）及び管理棟、屋内遊戯施設等、合計5棟の施設管理を併せて指定管理者による管理を想定
- ・ 令和7年度の指定管理費をベースに試算

事業費（指定管理料）の想定		内訳		備考
新施設：令和10年度	約33,000千円	事業運営費等	約27,000千円	職員数： 8名
		施設管理費	約6,000千円	管理面積： 約750m ²
現施設：令和7年度	約18,000千円	事業運営費等	約14,400千円	職員数： 5名
		施設管理費	約3,600千円	管理面積： 210m ²

【整備スケジュール】

時期		予定
令和8年	5月	・ 基本計画策定
	夏頃	・ 基本設計・実施設計
令和9年	春～夏頃	・ 建設工事 ・ 指定管理者募集
	令和9年度中	・ 開設（目標）

【今後の留意事項】

- ・ **パビリオン部材再利用に向けて**
パビリオン部材が構造部材として再利用可能か否かについて、今後の設計時に、改めて客観的に精査・評価する必要がある。
- ・ **施設名称（公募等含む）**
- ・ **条例化の手法**
- ・ **指定管理者の仕様及び選定スケジュール**